

様式第 2 号の 1－② 【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第 2 号の 1－①を用いること。

学校名	神戸電子専門学校
設置者名	学校法人コンピュータ総合学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	情報処理科	夜・通信	952 時間	160 時間	
	AI システム開発学科	夜・通信	1564 時間	160 時間	
	IT スペシャリスト学科	夜・通信	2142 時間	240 時間	
	IT エキスパート学科	夜・通信	2992 時間	320 時間	
	情報工学科	夜・通信	442 時間	160 時間	
	情報ビジネス学科	夜・通信	1258 時間	160 時間	
	プログラミング学科	夜・通信	952 時間	160 時間	
	esports エンジニア学科	夜・通信	986 時間	160 時間	
	ゲームエンジニア学科	夜・通信	1020 時間	240 時間	
	エンターテインメントソフト学科	夜・通信	1020 時間	240 時間	
	ゲーム開発研究学科	夜・通信	1258 時間	320 時間	
	グラフィックデザイン学科	夜・通信	3077 時間	160 時間	
	3DCG アニメーション学科	夜・通信	1462 時間	160 時間	
	デジタルアニメ学科	夜・通信	1564 時間	160 時間	

	サウンドクリエイト 学科	夜・通信	1989 時間	160 時間	
	サウンドテクニク 学科	夜・通信	1927 時間	160 時間	
	声優タレント学科	夜・通信	1428 時間	160 時間	
	建築インテリアデザイン学科 建築デザインコース	夜・通信	1819 時間	160 時間	
	建築インテリアデザイン学科 建築インテリアコース	夜・通信	1819 時間	160 時間	
	インダストリアルデ ザイン学科	夜・通信	1700 時間	160 時間	
	国際コミュニケーション 学科	夜・通信	238 時間	160 時間	
文化・教養専門課程	日本語学科 進学 2 年コース	夜・通信	0 時間	160 時間	※
	日本語学科 進学 1 年 6 か月コース	夜・通信	0 時間	120 時間	※
(備考) 工業専門課程プログラミング学科は、2023 年度より前身の工業専門課程ゲームソフト学科プログラミングコースから学年進行で学科名称変更・コース制を廃止した。 工業専門課程 esports エンジニア学科は 2023 年 4 月、前身の工業専門課程ゲームソフト学科 esports コースを分離独立して設置、学年進行により 2024 年度完成年度予定である。 工業専門課程ゲームエンジニア学科は 2023 年度より工業専門課程エンターテインメントソフト学科から学年進行で学科名称変更、2024 年度は第 1 学年及び第 2 学年のみ在籍している。 工業専門課程エンターテインメントソフト学科は 2023 年度より工業専門課程ゲームエンジニア学科へ学年進行で学科名称変更、2024 年度は第 3 学年のみ在籍している。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kobedenshi.ac.jp/info/features/pdf/public_info_work_experience.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名：文化・教養専門課程日本語学科

(困難である理由)

文化・教養専門課程日本語学科（進学 2 年コース、進学 1 年 6 か月コース）は、法務省の告示基準により告示された日本語教育機関である。教育課程は高等教育機関への進学を目指す外国人留学生等を対象に、日本語能力の修得を目的として編成されており、特定分野における実務能力の修得は目的としていない。担当する全ての教員は告示基準の第一条第一項第十三号に規定する日本語教員資格を有する者で構成されており、実務の経験を有する教員の配置は困難である。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	神戸電子専門学校
設置者名	学校法人コンピュータ総合学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.kobedenshi.ac.jp/info/features/pdf/public_info_director_list.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	医療法人病院長	2024. 5. 30 ～ 2028. 5. 29	法人経営
非常勤	株式会社 従業員	2023. 5. 27 ～ 2027. 5. 26	法人経営
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	神戸電子専門学校
設置者名	学校法人コンピュータ総合学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。													
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)													
・授業計画書(シラバス)の作成過程 各分野・学科においては、産業界の動向や人材ニーズの変化、社会情勢等に基づき教育課程編成委員会等にて毎年度教育課程の見直しを進める。 授業計画書(シラバス)は教育課程に設定された授業科目について、別に定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき各授業担当者(複数担当の場合は内容協議のうえ主担当)が3月下旬を目途に作成する。 作成した授業計画書(シラバス)は、各学科長及び分野リーダーがチェックし承認を受けた後、4月上旬に学校ホームページで公表する。 ・授業計画書(シラバス)の作成・公表時期 作成：12月下旬～3月下旬 公表：4月上旬													
授業計画書の公表方法	https://www.kobedenshi.ac.jp/info/features/syllabus_info.html												
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。													
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)													
授業期間は前期(4月～9月)、後期(10月～3月)の2期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等(シラバス記載)により各科目100点満点の評価点を算出し、評価点により下記の5段階(1～5)の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点100点満点に対し40点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。(評価単位は進級・卒業認定のためのものであり、単位制における単位とは異なる) <table> <tr> <th>評価点(100点満点)</th><th>評価</th></tr> <tr> <td>80点以上</td><td>— 5</td></tr> <tr> <td>60点以上 80点未満</td><td>— 4</td></tr> <tr> <td>40点以上 60点未満</td><td>— 3</td></tr> <tr> <td>20点以上 40点未満</td><td>— 2</td></tr> <tr> <td>20点未満</td><td>— 1</td></tr> </table>		評価点(100点満点)	評価	80点以上	— 5	60点以上 80点未満	— 4	40点以上 60点未満	— 3	20点以上 40点未満	— 2	20点未満	— 1
評価点(100点満点)	評価												
80点以上	— 5												
60点以上 80点未満	— 4												
40点以上 60点未満	— 3												
20点以上 40点未満	— 2												
20点未満	— 1												

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) ・GPA等の客観的な指標の具体的な内容 GPAは導入していないが、GPAに代わる成績評価の客観的指標として、全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。 成績順位は各科目の評価点(100点満点)に評価単位数を乗じた加重平均(100点満点)を算出し、これを各学科・学年別に降順に整列して算出する。 ・客観的な指標の適切な実施状況 全学科において前期末及び後期末の成績評価時に上記方法により評価点平均及び成績順位を算出している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.kobedenshi.ac.jp/info/features/pdf/public_info/objective_indicators.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で40評価単位(合格科目の評価単位数合計)以上を取得し、かつ年間間の出席率が80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において40評価単位以上を取得し、かつ各年度の出席率が80%以上であることを条件とする。 年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長が卒業を認定する。 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.kobedenshi.ac.jp/info/features/pdf/public_info/graduation_certification.pdf

様式第2号の4－②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4－①を用いること。

学校名	神戸電子専門学校
設置者名	学校法人コンピュータ総合学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kobedenshi.ac.jp/info/features/pdf/public_info_balance_sheet.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kobedenshi.ac.jp/info/features/pdf/public_info_cash_balance.pdf
財産目録	https://www.kobedenshi.ac.jp/info/features/pdf/public_info_inventory_property.pdf
事業報告書	https://www.kobedenshi.ac.jp/info/features/pdf/public_info_business_report.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.kobedenshi.ac.jp/info/features/pdf/public_info_audit_report.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	情報処理学科		○		－	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1700 単位時間／単位	799 単位時間 ／単位	1173 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	
			1972 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
80 人		116 人	14 人	20 人の内数	11 人の内数		31 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） IT スキルの基礎を身につけ、システム開発の中心的存在として IT 産業界で活躍できる IT エンジニアを育成するとともに、国家資格「基本情報技術者」合格を目指す。 授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書(シラバス)として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期(4 月～9 月)、後期(10 月～3 月)の 2 期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等(シラバス記載)により各科目 100 点満点の評価点を算出し、評価点により下記の 5 段階(1～5)の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点 100 点満点に対し 40 点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table> <tr> <td>評価点 (100 点満点)</td><td>評価</td></tr> <tr> <td>80 点以上</td><td>— 5</td></tr> <tr> <td>60 点以上 80 点未満</td><td>— 4</td></tr> <tr> <td>40 点以上 60 点未満</td><td>— 3</td></tr> <tr> <td>20 点以上 40 点未満</td><td>— 2</td></tr> <tr> <td>20 点未満</td><td>— 1</td></tr> </table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。 成績順位は各科目の評価点(100 点満点)に評価単位数を乗じた加重平均(100 点満点)を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点 (100 点満点)	評価	80 点以上	— 5	60 点以上 80 点未満	— 4	40 点以上 60 点未満	— 3	20 点以上 40 点未満	— 2	20 点未満	— 1
評価点 (100 点満点)	評価												
80 点以上	— 5												
60 点以上 80 点未満	— 4												
40 点以上 60 点未満	— 3												
20 点以上 40 点未満	— 2												
20 点未満	— 1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で 40 評価単位(合格科目の評価単位数合計)以上を取得し、かつ年間の出席率が 80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において 40 評価単位以上を取得し、かつ各年度													

の出席率が80%以上であることを条件とする。 年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長が卒業を認定する。 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については保護者への電話連絡や文書通知等を行い必要に応じて三者面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
78 人 (100%)	2 人 (2.6%)	70 人 (89.7%)	6 人 (7.7%)
(主な就職、業界等) I T 関連業界（システムエンジニア、プログラマ、ネットワークエンジニア、Web エンジニア、他）			
(就職指導内容) クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者、応用情報技術者、C 言語プログラミング能力認定、情報検定、他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
156 人	10 人	6.4%
(中途退学の主な理由) 経済的理由、進路変更、健康理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、保護者連絡・三者面談、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	AI システム開発学科	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1700 単位時間／単位	136 単位時間 ／単位	1564 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			1700 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		48 人	11 人	20 人の内数	11 人の内数	31 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） IT エンジニアリング技術の修得に加え、企画・デザインを含めた IT サービス全体を「つくる」ことを中心に学ぶ。AI を基礎原理から応用・実装まで学び、クリエイティブな IT エンジニアを育成する。 授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書(シラバス)として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期(4 月～9 月)、後期(10 月～3 月)の 2 期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等(シラバス記載)により各科目 100 点満点の評価点を算出し、評価点により下記の 5 段階(1～5)の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点 100 点満点に対し 40 点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table> <tr> <th>評価点 (100 点満点)</th><th>評価</th></tr> <tr> <td>80 点以上</td><td>— 5</td></tr> <tr> <td>60 点以上 80 点未満</td><td>— 4</td></tr> <tr> <td>40 点以上 60 点未満</td><td>— 3</td></tr> <tr> <td>20 点以上 40 点未満</td><td>— 2</td></tr> <tr> <td>20 点未満</td><td>— 1</td></tr> </table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。成績順位は各科目の評価点(100 点満点)に評価単位数を乗じた加重平均(100 点満点)を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点 (100 点満点)	評価	80 点以上	— 5	60 点以上 80 点未満	— 4	40 点以上 60 点未満	— 3	20 点以上 40 点未満	— 2	20 点未満	— 1
評価点 (100 点満点)	評価												
80 点以上	— 5												
60 点以上 80 点未満	— 4												
40 点以上 60 点未満	— 3												
20 点以上 40 点未満	— 2												
20 点未満	— 1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で 40 評価単位(合格科目の評価単位数合計)以上を取得し、かつ年間出席率が 80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において 40 評価単位以上を取得し、かつ各年度の出席率が 80%以上であることを条件とする。 年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長													

が卒業を認定する。 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については保護者への電話連絡や文書通知等を行い必要に応じて三者面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
27 人 (100%)	1 人 (3.7%)	26 人 (96.3%)	0 人 (0.0%)
(主な就職、業界等) I T 関連業界（システムエンジニア、プログラマ、ネットワークエンジニア、Web エンジニア、他）			
(就職指導内容) クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者、応用情報技術者、C 言語プログラミング能力認定、情報検定、他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
56 人	3 人	5.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、保護者連絡・三者面談、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT スペシャリスト学科	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2550 単位時間／単位	1360 単位時間 ／単位	2006 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			3366 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
210 人		240 人	12 人	20 人の内数	11 人の内数	31 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） 情報処理学科の 2 年間で学ぶ IT スキルの基礎に加え、Web アプリケーション開発、ネットワーク・セキュリティ、データベース等の先進的な技術を持った IT エンジニアを育成する。また、国家資格「基本情報技術者」「応用情報技術者」「高度情報技術者」の取得も目指す。 授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書(シラバス)として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期(4 月～9 月)、後期(10 月～3 月)の 2 期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等(シラバス記載)により各科目 100 点満点の評価点を算出し、評価点により下記の 5 段階(1～5)の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点 100 点満点に対し 40 点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table> <tr> <td>評価点 (100 点満点)</td><td>評価</td></tr> <tr> <td>80 点以上</td><td>— 5</td></tr> <tr> <td>60 点以上 80 点未満</td><td>— 4</td></tr> <tr> <td>40 点以上 60 点未満</td><td>— 3</td></tr> <tr> <td>20 点以上 40 点未満</td><td>— 2</td></tr> <tr> <td>20 点未満</td><td>— 1</td></tr> </table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。成績順位は各科目の評価点(100 点満点)に評価単位数を乗じた加重平均(100 点満点)を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点 (100 点満点)	評価	80 点以上	— 5	60 点以上 80 点未満	— 4	40 点以上 60 点未満	— 3	20 点以上 40 点未満	— 2	20 点未満	— 1
評価点 (100 点満点)	評価												
80 点以上	— 5												
60 点以上 80 点未満	— 4												
40 点以上 60 点未満	— 3												
20 点以上 40 点未満	— 2												
20 点未満	— 1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で 40 評価単位(合格科目の評価単位数合計)以上を取得し、かつ年間出席率が 80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において 40 評価単位以上を取得し、かつ各年度の出席率が 80%以上であることを条件とする。													

年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長が卒業を認定する。 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については保護者への電話連絡や文書通知等を行い必要に応じて三者面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
103 人 (100%)	0 人 (0.0%)	99 人 (96.1%)	4 人 (3.9%)
(主な就職、業界等) I T 関連業界（システムエンジニア、プログラマー、ネットワークエンジニア、Web エンジニア、他）			
(就職指導内容) クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者、応用情報技術者、C 言語プログラミング能力認定、情報検定、他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
305 人	13 人	4.3%
(中途退学の主な理由) 経済的理由、進路変更、健康理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、保護者連絡・三者面談、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	IT エキスパート学科		－	○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼	3400 単位時間／単位	1360 単位時間 ／単位	2856 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			4216 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人		165 人	8 人	20 人の内数	11 人の内数	31 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																			
（概要） IT スペシャリスト学科の3年間で学ぶ IT スキルに加え、PBL (Project Based Learning) やケーススタディにより IT による高度な課題解決能力を育成し、システム構築プロジェクトの中で活躍できる IT エンジニアを育成す。また、国家資格「応用情報技術者」「高度情報技術者」の取得も目指す。 授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書(シラバス)として作成・公表している。																			
成績評価の基準・方法																			
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期(4月～9月)、後期(10月～3月)の2期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等(シラバス記載)により各科目 100 点満点の評価点を算出し、評価点により下記の5段階(1～5)の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点 100 点満点に対し 40 点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table><tr><td>評価点 (100 点満点)</td><td></td><td>評価</td></tr><tr><td>80 点以上</td><td>—</td><td>5</td></tr><tr><td>60 点以上 80 点未満</td><td>—</td><td>4</td></tr><tr><td>40 点以上 60 点未満</td><td>—</td><td>3</td></tr><tr><td>20 点以上 40 点未満</td><td>—</td><td>2</td></tr><tr><td>20 点未満</td><td>—</td><td>1</td></tr></table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。成績順位は各科目の評価点(100 点満点)に評価単位数を乗じた加重平均(100 点満点)を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点 (100 点満点)		評価	80 点以上	—	5	60 点以上 80 点未満	—	4	40 点以上 60 点未満	—	3	20 点以上 40 点未満	—	2	20 点未満	—	1
評価点 (100 点満点)		評価																	
80 点以上	—	5																	
60 点以上 80 点未満	—	4																	
40 点以上 60 点未満	—	3																	
20 点以上 40 点未満	—	2																	
20 点未満	—	1																	
卒業・進級の認定基準																			
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で 40 評価単位(合格科目の評価単位数合計) 以上を取得し、かつ年間出席率が 80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において 40 評価単位以上を取得し、かつ各年度出席率が 80%以上であることを条件とする。																			

年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長が卒業を認定する。 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については保護者への電話連絡や文書通知等を行い必要に応じて三者面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
47 人 (100%)	1 人 (2.1%)	43 人 (91.5%)	3 人 (6.4%)
(主な就職、業界等) I T 関連業界（システムエンジニア、プログラマ、ネットワークエンジニア、Web エンジニア、他）			
(就職指導内容) クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者、応用情報技術者、C 言語プログラミング能力認定、情報検定、他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
168 人	4 人	2.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更、健康理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、保護者連絡・三者面談、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	情報工学科		○		－	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1700 単位時間／単位	782 単位時間 ／単位	918 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	
			1700 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
70 人		26 人	0 人	2 人	2 人	4 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） 設計・調整・保守の各局面でハードウェアシステムの仕組みと制御ソフトウェアの構造を論理的に考察し、実践的な快活能力に長けた CE（カスタマ・エンジニア）を育成する。授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書（シラバス）として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期（4 月～9 月）、後期（10 月～3 月）の 2 期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等（シラバス記載）により各科目 100 点満点の評価点を算出し、評価点により下記の 5 段階（1～5）の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点 100 点満点に対し 40 点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table> <tr> <td>評価点（100 点満点）</td><td>評価</td></tr> <tr> <td>80 点以上</td><td>— 5</td></tr> <tr> <td>60 点以上 80 点未満</td><td>— 4</td></tr> <tr> <td>40 点以上 60 点未満</td><td>— 3</td></tr> <tr> <td>20 点以上 40 点未満</td><td>— 2</td></tr> <tr> <td>20 点未満</td><td>— 1</td></tr> </table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。成績順位は各科目の評価点（100 点満点）に評価単位数を乗じた加重平均（100 点満点）を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点（100 点満点）	評価	80 点以上	— 5	60 点以上 80 点未満	— 4	40 点以上 60 点未満	— 3	20 点以上 40 点未満	— 2	20 点未満	— 1
評価点（100 点満点）	評価												
80 点以上	— 5												
60 点以上 80 点未満	— 4												
40 点以上 60 点未満	— 3												
20 点以上 40 点未満	— 2												
20 点未満	— 1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で 40 評価単位（合格科目の評価単位数合計）以上を取得し、かつ年間出席率が 80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において 40 評価単位以上を取得し、かつ各年度の出席率が 80%以上であることを条件とする。 年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長が卒業を認定する。													

・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については保護者への電話連絡や文書通知等を行い必要に応じて三者面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14 人 (100%)	0 人 (0.0%)	14 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)
(主な就職、業界等) 電気電子通信業界、IT 業界（カスタマーエンジニア、フィールドエンジニア、回路設計技術者、他）			
(就職指導内容) クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）) デジタル技術検定、C 言語プログラミング能力認定、他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24 人	1 人	4.2%
(中途退学の主な理由) 学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、保護者連絡・三者面談、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	情報ビジネス学科		○		－	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1700 単位時間／単位	986 単位時間 ／単位	714 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	
			1700 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
70 人		35 人	4 人	2 人	3 人	5 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） ビジネス活動にコンピュータを効果的に活用できる技術を身につけ、自発的行動力（困難な物事にでも自ら取り組み、積極的に行動する）を持つ人材を育成する。 授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書（シラバス）として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期（4 月～9 月）、後期（10 月～3 月）の 2 期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等（シラバス記載）により各科目 100 点満点の評価点を算出し、評価点により下記の 5 段階（1～5）の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点 100 点満点に対し 40 点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table> <tr> <td>評価点（100 点満点）</td><td>評価</td></tr> <tr> <td>80 点以上</td><td>— 5</td></tr> <tr> <td>60 点以上 80 点未満</td><td>— 4</td></tr> <tr> <td>40 点以上 60 点未満</td><td>— 3</td></tr> <tr> <td>20 点以上 40 点未満</td><td>— 2</td></tr> <tr> <td>20 点未満</td><td>— 1</td></tr> </table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。成績順位は各科目の評価点（100 点満点）に評価単位数を乗じた加重平均（100 点満点）を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点（100 点満点）	評価	80 点以上	— 5	60 点以上 80 点未満	— 4	40 点以上 60 点未満	— 3	20 点以上 40 点未満	— 2	20 点未満	— 1
評価点（100 点満点）	評価												
80 点以上	— 5												
60 点以上 80 点未満	— 4												
40 点以上 60 点未満	— 3												
20 点以上 40 点未満	— 2												
20 点未満	— 1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で 40 評価単位（合格科目の評価単位数合計）以上を取得し、かつ年間出席率が 80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において 40 評価単位以上を取得し、かつ各年度の出席率が 80%以上であることを条件とする。 年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長が卒業を認定する。													

・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については保護者への電話連絡や文書通知等を行い必要に応じて三者面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
22 人 (100%)	2 人 (9.1%)	19 人 (86.4%)	1 人 (4.5%)
(主な就職、業界等) 営業職、販売職、事務職、介護職、製造業、他			
(就職指導内容) クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）) 秘書検定、社会人常識マナー検定、簿記検定、ビジネス能力検定、他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36 人	1 人	2.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、保護者連絡・三者面談、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	プログラミング学科	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1700 単位時間／単位	816 単位時間 ／単位	1972 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			2788 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150 人		36 人	2 人	22 人の内数	6 人の内数	28 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） コンピュータの基礎知識を学習し、ゲームプログラムを題材に、アルゴリズムやプログラミング技術を修得したプログラマを育成する。 授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書（シラバス）として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期（4 月～9 月）、後期（10 月～3 月）の 2 期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等（シラバス記載）により各科目 100 点満点の評価点を算出し、評価点により下記の 5 段階（1～5）の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点 100 点満点に対し 40 点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table> <tr> <td>評価点（100 点満点）</td><td>評価</td></tr> <tr> <td>80 点以上</td><td>— 5</td></tr> <tr> <td>60 点以上 80 点未満</td><td>— 4</td></tr> <tr> <td>40 点以上 60 点未満</td><td>— 3</td></tr> <tr> <td>20 点以上 40 点未満</td><td>— 2</td></tr> <tr> <td>20 点未満</td><td>— 1</td></tr> </table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。成績順位は各科目の評価点（100 点満点）に評価単位数を乗じた加重平均（100 点満点）を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点（100 点満点）	評価	80 点以上	— 5	60 点以上 80 点未満	— 4	40 点以上 60 点未満	— 3	20 点以上 40 点未満	— 2	20 点未満	— 1
評価点（100 点満点）	評価												
80 点以上	— 5												
60 点以上 80 点未満	— 4												
40 点以上 60 点未満	— 3												
20 点以上 40 点未満	— 2												
20 点未満	— 1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で 40 評価単位（合格科目の評価単位数合計）以上を取得し、かつ年間出席率が 80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において 40 評価単位以上を取得し、かつ各年度の出席率が 80%以上であることを条件とする。 年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長が卒業を認定する。													

・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については保護者への電話連絡や文書通知等を行い必要に応じて三者面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
85 人 (100%)	3 人 (3.5%)	75 人 (88.2%)	7 人 (8.2%)
(主な就職、業界等) ゲームソフト業界、IT 業界 プログラマ、エンジニア、クリエイター、他			
(就職指導内容) クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）) IT パスポート試験、C 言語プログラミング能力認定、情報検定、他			
(備考)（任意記載事項） 工業専門課程プログラミング学科は、2023 年度より前身の工業専門課程ゲームソフト学科プログラミングコースから学年進行で学科名称変更・コース制を廃止した。 上記卒業者数、進学者数、就職者数は 2023 年度ゲームソフト学科プログラミングコースの人数、次項の中途退学の現状は、2023 年度プログラミング学科(第 1 学年)とゲームソフト学科プログラミングコース(第 2 学年)との合算である。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
85 人	8 人	9.4%
(中途退学の主な理由) 学業不振、学生生活不適応		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、保護者連絡・三者面談、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	esports エンジニア学科		—	—	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1700 単位時間／単位	34 単位時間 ／単位	1666 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			1700 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		39 人	0 人	22 人の内数	6 人の内数	28 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） e スポーツイベント運営における基礎知識を学習し、オンライン・オフラインを問わず、e スポーツイベントの企画立案から運営までを実施できる e スポーツエンジニアを育成する。 授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書(シラバス)として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期(4 月～9 月)、後期(10 月～3 月)の 2 期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等(シラバス記載)により各科目 100 点満点の評価点を算出し、評価点により下記の 5 段階(1～5)の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点 100 点満点に対し 40 点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価点 (100 点満点)</th><th>評価</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80 点以上</td><td>5</td></tr> <tr> <td>60 点以上 80 点未満</td><td>4</td></tr> <tr> <td>40 点以上 60 点未満</td><td>3</td></tr> <tr> <td>20 点以上 40 点未満</td><td>2</td></tr> <tr> <td>20 点未満</td><td>1</td></tr> </tbody> </table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。成績順位は各科目の評価点(100 点満点)に評価単位数を乗じた加重平均(100 点満点)を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点 (100 点満点)	評価	80 点以上	5	60 点以上 80 点未満	4	40 点以上 60 点未満	3	20 点以上 40 点未満	2	20 点未満	1
評価点 (100 点満点)	評価												
80 点以上	5												
60 点以上 80 点未満	4												
40 点以上 60 点未満	3												
20 点以上 40 点未満	2												
20 点未満	1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で 40 評価単位(合格科目の評価単位数合計)以上を取得し、かつ年間出席率が 80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において 40 評価単位以上を取得し、かつ各年度の出席率が 80%以上であることを条件とする。 年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長													

が卒業を認定する。 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については保護者への電話連絡や文書通知等を行い必要に応じて三者面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
23 人 (100%)	0 人 (0.0%)	22 人 (95.7%)	1 人 (4.3%)
(主な就職、業界等) e スポーツ業界、イベント業界 ディレクター、テクニカルディレクター、e スポーツ施設スタッフ、他			
(就職指導内容) クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項） 工業専門課程 esports エンジニア学科は 2023 年 4 月、前身の工業専門課程ゲームソフト学科 esports コースを分離独立して設置、学年進行により 2024 年度完成年度予定である。 上記卒業生数、進学者数、就職者数は 2023 年度ゲームソフト学科 esports コースの人数、次項の中途退学の現状は、2023 年度 esports エンジニア学科(第 1 学年)とゲームソフト学科 esports コース(第 2 学年)との合算である。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
43 人	0 人	0.0%
(中途退学の主な理由) —		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、保護者連絡・三者面談、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	ゲームエンジニア学科		○		－	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	2550 単位時間／単位	986 単位時間 ／単位	3230 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	
			4216 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
210 人		242 人	4 人	22 人の内数	6 人の内数		28 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） ゲームソフト開発の基礎的技術を基に、3D 及びネットワークプログラミング等の応用技術を駆使し、企画、CG、制作実習などを通して、オリジナル作品を創造できるゲームクリエイターを育成する。 授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書(シラバス)として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期(4月～9月)、後期(10月～3月)の2期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等(シラバス記載)により各科目100点満点の評価点を算出し、評価点により下記の5段階(1～5)の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点100点満点に対し40点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table> <tr> <td>評価点(100点満点)</td><td>評価</td></tr> <tr> <td>80点以上</td><td>— 5</td></tr> <tr> <td>60点以上 80点未満</td><td>— 4</td></tr> <tr> <td>40点以上 60点未満</td><td>— 3</td></tr> <tr> <td>20点以上 40点未満</td><td>— 2</td></tr> <tr> <td>20点未満</td><td>— 1</td></tr> </table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。成績順位は各科目の評価点(100点満点)に評価単位数を乗じた加重平均(100点満点)を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点(100点満点)	評価	80点以上	— 5	60点以上 80点未満	— 4	40点以上 60点未満	— 3	20点以上 40点未満	— 2	20点未満	— 1
評価点(100点満点)	評価												
80点以上	— 5												
60点以上 80点未満	— 4												
40点以上 60点未満	— 3												
20点以上 40点未満	— 2												
20点未満	— 1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で40評価単位(合格科目の評価単位数合計)以上を取得し、かつ年間出席率が80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において40評価単位以上を取得し、かつ各年度の出席率が80%以上であることを条件とする。 年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長													

が卒業を認定する。 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については保護者への電話連絡や文書通知等を行い必要に応じて三者面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
一人 (ー%)	一人 (ー%)	一人 (ー%)	一人 (ー%)
(主な就職、業界等)			
ー			
(就職指導内容)			
クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
IT パスポート試験、C 言語プログラミング能力認定、情報検定、他			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
141 人	16 人	11.3%
(中途退学の主な理由)		
学業不振、学生生活不適応、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、保護者連絡・三者面談、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	エンターテインメント ソフト学科	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2550 単位時間／単位	986 単位時間 ／単位	3230 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			4216 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
210 人		120 人	1 人	22 人の内数	6 人の内数	28 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） ゲームソフト開発の基礎的技術を基に、3D 及びネットワークプログラミング等の応用技術を駆使し、企画、CG、制作実習などを通して、オリジナル作品を創造できるゲームクリエイターを育成する。 授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書(シラバス)として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期(4月～9月)、後期(10月～3月)の2期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等(シラバス記載)により各科目100点満点の評価点を算出し、評価点により下記の5段階(1～5)の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点100点満点に対し40点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table> <tr> <td>評価点(100点満点)</td><td>評価</td></tr> <tr> <td>80点以上</td><td>— 5</td></tr> <tr> <td>60点以上 80点未満</td><td>— 4</td></tr> <tr> <td>40点以上 60点未満</td><td>— 3</td></tr> <tr> <td>20点以上 40点未満</td><td>— 2</td></tr> <tr> <td>20点未満</td><td>— 1</td></tr> </table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。成績順位は各科目の評価点(100点満点)に評価単位数を乗じた加重平均(100点満点)を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点(100点満点)	評価	80点以上	— 5	60点以上 80点未満	— 4	40点以上 60点未満	— 3	20点以上 40点未満	— 2	20点未満	— 1
評価点(100点満点)	評価												
80点以上	— 5												
60点以上 80点未満	— 4												
40点以上 60点未満	— 3												
20点以上 40点未満	— 2												
20点未満	— 1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で40評価単位(合格科目の評価単位数合計)以上を取得し、かつ年間出席率が80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において40評価単位以上を取得し、かつ各年度の出席率が80%以上であることを条件とする。													

年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長が卒業を認定する。 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については保護者への電話連絡や文書通知等を行い必要に応じて三者面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
143 人 (100%)	2 人 (1.4%)	137 人 (95.8%)	4 人 (2.8%)
(主な就職、業界等) ゲームソフト業界、IT 関連業界（ゲームクリエイター、プログラマ、システムエンジニア、他）			
(就職指導内容) クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）) IT パスポート試験、C 言語プログラミング能力認定、情報検定、他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
272 人	9 人	3.3%
(中途退学の主な理由) 学業不振、学生生活不適應、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、保護者連絡・三者面談、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程		ゲーム開発研究学科		－		○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
4 年	昼	3400 単位時間／単位		986 単位時間 ／単位	4080 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	
				5066 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数	
120 人		95 人	2 人	22 人の内数		6 人の内数		28 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） ゲーム開発のエンジニアとして、最新テクノロジーを研究し、近未来に業界標準と想定されるコーディング能力を有した人材を育成する。 授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書(シラバス)として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期(4月～9月)、後期(10月～3月)の2期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等(シラバス記載)により各科目100点満点の評価点を算出し、評価点により下記の5段階(1～5)の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点100点満点に対し40点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table> <tr> <td>評価点(100点満点)</td><td>評価</td></tr> <tr> <td>80点以上</td><td>— 5</td></tr> <tr> <td>60点以上 80点未満</td><td>— 4</td></tr> <tr> <td>40点以上 60点未満</td><td>— 3</td></tr> <tr> <td>20点以上 40点未満</td><td>— 2</td></tr> <tr> <td>20点未満</td><td>— 1</td></tr> </table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。成績順位は各科目の評価点(100点満点)に評価単位数を乗じた加重平均(100点満点)を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点(100点満点)	評価	80点以上	— 5	60点以上 80点未満	— 4	40点以上 60点未満	— 3	20点以上 40点未満	— 2	20点未満	— 1
評価点(100点満点)	評価												
80点以上	— 5												
60点以上 80点未満	— 4												
40点以上 60点未満	— 3												
20点以上 40点未満	— 2												
20点未満	— 1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で40評価単位(合格科目の評価単位数合計)以上を取得し、かつ年間出席率が80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において40評価単位以上を取得し、かつ各年度の出席率が80%以上であることを条件とする。 年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長が卒業を認定する。													

・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については保護者への電話連絡や文書通知等を行い必要に応じて三者面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
4 人 (100%)	0 人 (0.0%)	4 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)
(主な就職、業界等) ゲームソフト業界、IT 関連業界（ゲームクリエイター、プログラマ、システムエンジニア、他）			
(就職指導内容) クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）) IT パスポート試験、C 言語プログラミング能力認定、情報検定、他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
91 人	7 人	7.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、保護者連絡・三者面談、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程		グラフィックデザイン 学科		○		－	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1700 単位時間／単位		102 単位時間 ／単位	2975 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	
				3077 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数
60 人		119 人	7 人		3 人		7 人		10 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） 商業デザインをベースに、デジタルによる視覚デザインを担う「クリエイター」を育成する。DTP、企画広告、Web システムなど表現ステージは多岐に亘る。また、産学連携による企業課題への取り組みを積極的に行い、実践的な課題演習を通じ「即戦力」を身につけるようカリキュラム編成としている。 授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書(シラバス)として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期(4 月～9 月)、後期(10 月～3 月)の 2 期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等(シラバス記載)により各科目 100 点満点の評価点を算出し、評価点により下記の 5 段階(1～5)の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点 100 点満点に対し 40 点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table> <tr> <td>評価点 (100 点満点)</td><td>評価</td></tr> <tr> <td>80 点以上</td><td>— 5</td></tr> <tr> <td>60 点以上 80 点未満</td><td>— 4</td></tr> <tr> <td>40 点以上 60 点未満</td><td>— 3</td></tr> <tr> <td>20 点以上 40 点未満</td><td>— 2</td></tr> <tr> <td>20 点未満</td><td>— 1</td></tr> </table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。成績順位は各科目の評価点(100 点満点)に評価単位数を乗じた加重平均(100 点満点)を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点 (100 点満点)	評価	80 点以上	— 5	60 点以上 80 点未満	— 4	40 点以上 60 点未満	— 3	20 点以上 40 点未満	— 2	20 点未満	— 1
評価点 (100 点満点)	評価												
80 点以上	— 5												
60 点以上 80 点未満	— 4												
40 点以上 60 点未満	— 3												
20 点以上 40 点未満	— 2												
20 点未満	— 1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で 40 評価単位(合格科目の評価単位数合計) 以上を取得し、かつ年間の出席率が 80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において 40 評価単位以上を取得し、かつ各年度													

の出席率が80%以上であることを条件とする。 年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長が卒業を認定する。 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については保護者への電話連絡や文書通知等を行い必要に応じて三者面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
51 人 (100%)	2 人 (3.9%)	46 人 (90.2%)	3 人 (5.9%)
(主な就職、業界等) 広告代理店、印刷会社、デザイン事務所、 Web 制作会社、メーカーのデザインや Web 担当部署 他			
(就職指導内容) クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）) DTP 検定ディレクション DTP 他			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
131 人	15 人	11.5%
(中途退学の主な理由) 精神的理由、健康理由、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、保護者連絡・三者面談、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	3DCG アニメーション 学科		○		－	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1700 単位時間／単位	68 単位時間 ／単位	1632 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	
			1700 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人		112 人	14 人	5 人	4 人	9 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） キャラクターアニメーションを中心に、3DCG 技術を用いてビジュアル表現し得る人材育成を目指す。視覚伝達に必要なデッサン力、色彩能力の養成より始め、3DCG 映像を中心としたシナリオ企画、コンテ演出、ポストプロ編集と一貫したプロダクション・プロセスを修得する。 授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書(シラバス)として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期(4 月～9 月)、後期(10 月～3 月)の 2 期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等(シラバス記載)により各科目 100 点満点の評価点を算出し、評価点により下記の 5 段階(1～5)の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点 100 点満点に対し 40 点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table> <tr> <td>評価点（100 点満点）</td><td>評価</td></tr> <tr> <td>80 点以上</td><td>— 5</td></tr> <tr> <td>60 点以上 80 点未満</td><td>— 4</td></tr> <tr> <td>40 点以上 60 点未満</td><td>— 3</td></tr> <tr> <td>20 点以上 40 点未満</td><td>— 2</td></tr> <tr> <td>20 点未満</td><td>— 1</td></tr> </table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。成績順位は各科目の評価点(100 点満点)に評価単位数を乗じた加重平均(100 点満点)を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点（100 点満点）	評価	80 点以上	— 5	60 点以上 80 点未満	— 4	40 点以上 60 点未満	— 3	20 点以上 40 点未満	— 2	20 点未満	— 1
評価点（100 点満点）	評価												
80 点以上	— 5												
60 点以上 80 点未満	— 4												
40 点以上 60 点未満	— 3												
20 点以上 40 点未満	— 2												
20 点未満	— 1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で 40 評価単位(合格科目の評価単位数合計)以上を取得し、かつ年間出席率が 80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において 40 評価単位以上を取得し、かつ各年度													

の出席率が80%以上であることを条件とする。 年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長が卒業を認定する。 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については保護者への電話連絡や文書通知等を行い必要に応じて三者面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
67 人 (100%)	7 人 (10.4%)	50 人 (74.6%)	10 人 (14.9%)
(主な就職、業界等) ゲーム業界、映像業界、アニメ業界 株式会社 Studio Khronos、株式会社 NAC、株式会社モックス、有限会社ヨーヨーミラクル、他			
(就職指導内容) クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）) CG クリエイター検定 他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
119 人	3 人	2.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更、精神的理由、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、保護者連絡・三者面談、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	デジタルアニメ学科		○		－	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1700 単位時間／単位	102 単位時間 ／単位	1598 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	
			1700 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人		53 人	9 人	3 人	0 人	3 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） アニメーション作画に必要なデッサン力、模写力、人体構造学、パース感覚の徹底した基礎画力養成・強化を行い、アニメーターのコアスキルである動画作法を中心にレイアウト・原画技術を修得する。また、ペイント・編集ソフトのスキルを身につけた、次世代アニメクリエイターを育成する。 授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書(シラバス)として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期(4月～9月)、後期(10月～3月)の2期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等(シラバス記載)により各科目100点満点の評価点を算出し、評価点により下記の5段階(1～5)の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点100点満点に対し40点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table> <tr> <td>評価点（100点満点）</td><td>評価</td></tr> <tr> <td>80点以上</td><td>— 5</td></tr> <tr> <td>60点以上 80点未満</td><td>— 4</td></tr> <tr> <td>40点以上 60点未満</td><td>— 3</td></tr> <tr> <td>20点以上 40点未満</td><td>— 2</td></tr> <tr> <td>20点未満</td><td>— 1</td></tr> </table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。成績順位は各科目の評価点(100点満点)に評価単位数を乗じた加重平均(100点満点)を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点（100点満点）	評価	80点以上	— 5	60点以上 80点未満	— 4	40点以上 60点未満	— 3	20点以上 40点未満	— 2	20点未満	— 1
評価点（100点満点）	評価												
80点以上	— 5												
60点以上 80点未満	— 4												
40点以上 60点未満	— 3												
20点以上 40点未満	— 2												
20点未満	— 1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で40評価単位(合格科目の評価単位数合計)以上を取得し、かつ年間出席率が80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において40評価単位以上を取得し、かつ各年度の出席率が80%以上であることを条件とする。													

年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長が卒業を認定する。 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については保護者への電話連絡や文書通知等を行い必要に応じて三者面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
24 人 (100%)	1 人 (4.2%)	20 人 (83.3%)	3 人 (12.5%)
(主な就職、業界等) アニメ業界（アニメーター、ペイント、制作進行、撮影） シンエイ動画(株)、(株)プロダクション・アイジー、(株)サテライト 他			
(就職指導内容) クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）) 色彩検定 他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
63 人	7 人	11.1%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、保護者連絡・三者面談、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	サウンドクリエイト学科	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1700 単位時間／単位	170 単位時間 ／単位	2091 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			2261 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		39 人	3 人	2 人	3 人	5 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） 楽曲・効果音制作やレコーディングのスキルを養い、映画やゲームの音楽・効果音、モバイルコンテンツなど、あらゆるメディアの「音」を生み出すサウンドクリエイターを育成する。 授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書(シラバス)として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期(4月～9月)、後期(10月～3月)の2期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等(シラバス記載)により各科目100点満点の評価点を算出し、評価点により下記の5段階(1～5)の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点100点満点に対し40点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table> <tr> <th>評価点(100点満点)</th><th>評価</th></tr> <tr> <td>80点以上</td><td>— 5</td></tr> <tr> <td>60点以上 80点未満</td><td>— 4</td></tr> <tr> <td>40点以上 60点未満</td><td>— 3</td></tr> <tr> <td>20点以上 40点未満</td><td>— 2</td></tr> <tr> <td>20点未満</td><td>— 1</td></tr> </table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。成績順位は各科目の評価点(100点満点)に評価単位数を乗じた加重平均(100点満点)を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点(100点満点)	評価	80点以上	— 5	60点以上 80点未満	— 4	40点以上 60点未満	— 3	20点以上 40点未満	— 2	20点未満	— 1
評価点(100点満点)	評価												
80点以上	— 5												
60点以上 80点未満	— 4												
40点以上 60点未満	— 3												
20点以上 40点未満	— 2												
20点未満	— 1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で40評価単位(合格科目の評価単位数合計)以上を取得し、かつ年間出席率が80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において40評価単位以上を取得し、かつ各年度の出席率が80%以上であることを条件とする。 年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長													

が卒業を認定する。 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については保護者への電話連絡や文書通知等を行い必要に応じて三者面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
29 人 (100%)	0 人 (0.0%)	20 人 (69.0%)	9 人 (31.0%)
(主な就職、業界等) ゲームソフト業界、ポストプロダクション、放送制作業界 他			
(就職指導内容) クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）) 映像音響処理技術者 他			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
52 人	3 人	5.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、保護者連絡・三者面談、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	サウンドテクニク学科		○		－	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1700 単位時間／単位	221 単位時間 ／単位	1836 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	
			2057 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人		66 人	2 人	3 人	5 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） 音や音楽に対する技術・感性を磨き、ライブやコンサート現場・レコーディングスタジオ・放送局等において様々な場面で活躍する「音の表現者」としてのエンジニアを育成する。 授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書(シラバス)として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期(4月～9月)、後期(10月～3月)の2期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等(シラバス記載)により各科目100点満点の評価点を算出し、評価点により下記の5段階(1～5)の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点100点満点に対し40点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table> <tr> <th>評価点(100点満点)</th><th>評価</th></tr> <tr> <td>80点以上</td><td>5</td></tr> <tr> <td>60点以上 80点未満</td><td>4</td></tr> <tr> <td>40点以上 60点未満</td><td>3</td></tr> <tr> <td>20点以上 40点未満</td><td>2</td></tr> <tr> <td>20点未満</td><td>1</td></tr> </table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。成績順位は各科目の評価点(100点満点)に評価単位数を乗じた加重平均(100点満点)を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点(100点満点)	評価	80点以上	5	60点以上 80点未満	4	40点以上 60点未満	3	20点以上 40点未満	2	20点未満	1
評価点(100点満点)	評価												
80点以上	5												
60点以上 80点未満	4												
40点以上 60点未満	3												
20点以上 40点未満	2												
20点未満	1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で40評価単位(合格科目の評価単位数合計)以上を取得し、かつ年間出席率が80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において40評価単位以上を取得し、かつ各年度の出席率が80%以上であることを条件とする。 年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長													

が卒業を認定する。 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については保護者への電話連絡や文書通知等を行い必要に応じて三者面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
26 人 (100%)	0 人 (0.0%)	20 人 (76.9%)	6 人 (23.1%)
(主な就職、業界等) 音響業界、照明業界、レコーディング業界、ポストプロダクション業界 他			
(就職指導内容) クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）) 映像音響処理技術者試験、第2種電気工事士試験 他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
57 人	2 人	3.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、保護者連絡・三者面談、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	声優タレント学科		○		－	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1700 単位時間／単位	136 単位時間 ／単位	1564 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	
			1700 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人		40 人	0 人	3 人	4 人	7 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） 「声の表現者」として必要不可欠な発声・発音法や表現力・コミュニケーション力を磨き、様々な場面において活躍する声優・タレントを育成する。 授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書(シラバス)として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期(4月～9月)、後期(10月～3月)の2期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等(シラバス記載)により各科目100点満点の評価点を算出し、評価点により下記の5段階(1～5)の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点100点満点に対し40点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table> <tr> <td>評価点(100点満点)</td><td>評価</td></tr> <tr> <td>80点以上</td><td>— 5</td></tr> <tr> <td>60点以上 80点未満</td><td>— 4</td></tr> <tr> <td>40点以上 60点未満</td><td>— 3</td></tr> <tr> <td>20点以上 40点未満</td><td>— 2</td></tr> <tr> <td>20点未満</td><td>— 1</td></tr> </table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。成績順位は各科目の評価点(100点満点)に評価単位数を乗じた加重平均(100点満点)を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点(100点満点)	評価	80点以上	— 5	60点以上 80点未満	— 4	40点以上 60点未満	— 3	20点以上 40点未満	— 2	20点未満	— 1
評価点(100点満点)	評価												
80点以上	— 5												
60点以上 80点未満	— 4												
40点以上 60点未満	— 3												
20点以上 40点未満	— 2												
20点未満	— 1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で40評価単位(合格科目の評価単位数合計)以上を取得し、かつ年間出席率が80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において40評価単位以上を取得し、かつ各年度の出席率が80%以上であることを条件とする。 年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長が卒業を認定する。													

・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については保護者への電話連絡や文書通知等を行い必要に応じて三者面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14 人 (100%)	0 人 (0.0%)	12 人 (85.7%)	2 人 (14.3%)
(主な就職、業界等) 声優タレント業界、一般企業、声優/タレント養成所 他			
(就職指導内容) クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）) 日本語音声表現力検定、朗読検定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
39 人	1 人	2.6%
(中途退学の主な理由) 学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、保護者連絡・三者面談、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士		
工業		工業専門課程	建築インテリアデザイン学科 建築デザインコース	○		－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1853 単位時間／単位	629 単位時間 ／単位	1224 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	
			1853 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数
100 人の内数		69 人	6 人	5 人の内数		11 人の内数		16 人の内数

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） CAD を用いて建築物をデザインし、実務に必要な建築知識・設計能力を身に付け、業界で即戦力となる技術者を育成する。 授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書（シラバス）として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） - 成績評価方法 授業期間は前期（4 月～9 月）、後期（10 月～3 月）の 2 期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等（シラバス記載）により各科目 100 点満点の評価点を算出し、評価点により下記の 5 段階（1～5）の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点 100 点満点に対し 40 点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table> <tr> <td>評価点（100 点満点）</td><td>評価</td></tr> <tr> <td>80 点以上</td><td>— 5</td></tr> <tr> <td>60 点以上 80 点未満</td><td>— 4</td></tr> <tr> <td>40 点以上 60 点未満</td><td>— 3</td></tr> <tr> <td>20 点以上 40 点未満</td><td>— 2</td></tr> <tr> <td>20 点未満</td><td>— 1</td></tr> </table> - 客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。 成績順位は各科目の評価点（100 点満点）に評価単位数を乗じた加重平均（100 点満点）を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点（100 点満点）	評価	80 点以上	— 5	60 点以上 80 点未満	— 4	40 点以上 60 点未満	— 3	20 点以上 40 点未満	— 2	20 点未満	— 1
評価点（100 点満点）	評価												
80 点以上	— 5												
60 点以上 80 点未満	— 4												
40 点以上 60 点未満	— 3												
20 点以上 40 点未満	— 2												
20 点未満	— 1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） 卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で 40 評価単位（合格科目の評価単位数合計）以上を取得し、かつ年間の出席率が 80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において 40 評価単位以上を取得し、かつ各年度の出席率が 80%以上であることを条件とする。 年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長が卒業を認定する。													

・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については保護者への電話連絡や文書通知等を行い必要に応じて三者面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
30 人 (100%)	6 人 (20.0%)	22 人 (73.3%)	2 人 (6.7%)
(主な就職、業界等) 建築設計事務所、工務店、ハウスメーカー他（CG デザイナー、他）			
(就職指導内容) クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）) 建築 CAD 検定、学外コンテスト「建築新人戦」、他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
70 人	2 人	2.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、保護者連絡・三者面談、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築インテリアデザイン学科 建築インテリアコース		○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1853 単位時間／単位	629 単位時間 ／単位	1224 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	
			1853 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数
100 人の内数		27 人	3 人	5 人の内数		11 人の内数		16 人の内数

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） インテリア空間を、CAD を用いてデザイン・設計し、業界で幅広く活躍できる技術者を育成する。 授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書(シラバス)として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期(4 月～9 月)、後期(10 月～3 月)の 2 期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等(シラバス記載)により各科目 100 点満点の評価点を算出し、評価点により下記の 5 段階(1～5)の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点 100 点満点に対し 40 点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table> <tr> <td>評価点 (100 点満点)</td><td>評価</td></tr> <tr> <td>80 点以上</td><td>— 5</td></tr> <tr> <td>60 点以上 80 点未満</td><td>— 4</td></tr> <tr> <td>40 点以上 60 点未満</td><td>— 3</td></tr> <tr> <td>20 点以上 40 点未満</td><td>— 2</td></tr> <tr> <td>20 点未満</td><td>— 1</td></tr> </table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。 成績順位は各科目の評価点(100 点満点)に評価単位数を乗じた加重平均(100 点満点)を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点 (100 点満点)	評価	80 点以上	— 5	60 点以上 80 点未満	— 4	40 点以上 60 点未満	— 3	20 点以上 40 点未満	— 2	20 点未満	— 1
評価点 (100 点満点)	評価												
80 点以上	— 5												
60 点以上 80 点未満	— 4												
40 点以上 60 点未満	— 3												
20 点以上 40 点未満	— 2												
20 点未満	— 1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で 40 評価単位(合格科目の評価単位数合計) 以上を取得し、かつ年間の出席率が 80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において 40 評価単位以上を取得し、かつ各年度の出席率が 80%以上であることを条件とする。 年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長が卒業を認定する。													

・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については保護者への電話連絡や文書通知等を行い必要に応じて三者面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
10 人 (100%)	1 人 (10.0%)	8 人 (80.0%)	1 人 (10.0%)
(主な就職、業界等) 建築設計事務所、工務店、ハウスメーカー、他（CG デザイナー、他）			
(就職指導内容) クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）) 建築 CAD 検定、学外コンテスト「建築新人戦」、他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23 人	2 人	8.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、保護者連絡・三者面談、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程		インダストリアル デザイン学科		○		－	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1700 単位時間／単位		0 単位時間 ／単位	1700 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	
				1700 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数
60 人		34 人	2 人		2 人		3 人		5 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）		
（概要）		
工業デザイン分野において、3 次元 CAD を駆使し機械設計および製品デザインを展開する技術者を育成する。		
授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書（シラバス）として作成・公表している。		
成績評価の基準・方法		
（概要）		
・成績評価方法		
授業期間は前期（4 月～9 月）、後期（10 月～3 月）の 2 期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。		
成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等（シラバス記載）により各科目 100 点満点の評価点を算出し、評価点により下記の 5 段階（1～5）の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。		
各科目評価点 100 点満点に対し 40 点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。		
評価点（100 点満点）		評価
80 点以上	—	5
60 点以上 80 点未満	—	4
40 点以上 60 点未満	—	3
20 点以上 40 点未満	—	2
20 点未満	—	1
・客観的な指標の算出方法		
成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。		
成績順位は各科目の評価点（100 点満点）に評価単位数を乗じた加重平均（100 点満点）を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。		
全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		
卒業・進級の認定基準		
（概要）		
・卒業の認定に関する方針の具体的な内容		
進級判定		
各学年の進級に関しては、年間で 40 評価単位（合格科目の評価単位数合計）以上を取得し、かつ年間の出席率が 80%以上であることを条件とする。		
卒業判定		
卒業に関しては、卒業までの各年度において 40 評価単位以上を取得し、かつ各年度の出席率が 80%以上であることを条件とする。		
年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長		

が卒業を認定する。 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については保護者への電話連絡や文書通知等を行い必要に応じて三者面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
24 人 (100%)	1 人 (4.2%)	21 人 (87.5%)	2 人 (8.3%)
(主な就職、業界等) 製造業（CG デザイナー、他）			
(就職指導内容) クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）) 3 次元 CAD 利用技術者試験			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
49 人	2 人	4.1%
(中途退学の主な理由) 学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、保護者連絡・三者面談、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	国際コミュニケーション学科	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1700 単位時間／単位	238 単位時間 ／単位	1462 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			1700 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		42 人	42 人	2 人	1 人	3 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） 日本語学校の卒業者を中心とした外国人に対し、実就労に耐える日本語コミュニケーションの能力を養い、日本の社会に対応できる人材を育成する。 授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書（シラバス）として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期（4 月～9 月）、後期（10 月～3 月）の 2 期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等（シラバス記載）により各科目 100 点満点の評価点を算出し、評価点により下記の 5 段階（1～5）の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点 100 点満点に対し 40 点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table> <tr> <th>評価点（100 点満点）</th><th>評価</th></tr> <tr> <td>80 点以上</td><td>— 5</td></tr> <tr> <td>60 点以上 80 点未満</td><td>— 4</td></tr> <tr> <td>40 点以上 60 点未満</td><td>— 3</td></tr> <tr> <td>20 点以上 40 点未満</td><td>— 2</td></tr> <tr> <td>20 点未満</td><td>— 1</td></tr> </table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。成績順位は各科目の評価点（100 点満点）に評価単位数を乗じた加重平均（100 点満点）を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点（100 点満点）	評価	80 点以上	— 5	60 点以上 80 点未満	— 4	40 点以上 60 点未満	— 3	20 点以上 40 点未満	— 2	20 点未満	— 1
評価点（100 点満点）	評価												
80 点以上	— 5												
60 点以上 80 点未満	— 4												
40 点以上 60 点未満	— 3												
20 点以上 40 点未満	— 2												
20 点未満	— 1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で 40 評価単位（合格科目の評価単位数合計）以上を取得し、かつ年間出席率が 80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において 40 評価単位以上を取得し、かつ各年度の出席率が 80%以上であることを条件とする。 年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長													

が卒業を認定する。 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況が思わしくない学生については日本語学科や国際交流グループと連携し面談を行うなどの学修支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、キャリアセンターにはキャリアサポーターを配置し、クラス担任と連携した就職や進学等に関する学生のキャリアサポート体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5 人 (100%)	3 人 (60.0%)	2 人 (40.0%)	0 人 (0.0%)
(主な就職、業界等)			
技術・人文知識・国際業務（通訳、接客、営業、管理業務、他）			
(就職指導内容)			
クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
グローバル人材ビジネス実務検定、金融リテラシー検定、JLPT(日本語能力試験)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
14 人	0 人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
—		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	日本語学科 進学2年コース	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
	昼	1700 単位時間／単位	697 単位時間 ／単位	1003 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
2年			1700 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人の内数		97 人	97 人	2 人の内数	14 人の内数	18 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） 実社会においてグローバルに活躍の場を求めることができる真の国際人としての異文化理解・コミュニケーション能力の育成を図り、高等教育機関への進学を目指す。授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書（シラバス）として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期（4月～9月）、後期（10月～3月）の2期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等（シラバス記載）により各科目 100 点満点の評価点を算出し、評価点により下記の 5 段階（1～5）の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点 100 点満点に対し 40 点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table> <tr> <td>評価点（100 点満点）</td><td>評価</td></tr> <tr> <td>80 点以上</td><td>— 5</td></tr> <tr> <td>60 点以上 80 点未満</td><td>— 4</td></tr> <tr> <td>40 点以上 60 点未満</td><td>— 3</td></tr> <tr> <td>20 点以上 40 点未満</td><td>— 2</td></tr> <tr> <td>20 点未満</td><td>— 1</td></tr> </table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。成績順位は各科目の評価点（100 点満点）に評価単位数を乗じた加重平均（100 点満点）を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点（100 点満点）	評価	80 点以上	— 5	60 点以上 80 点未満	— 4	40 点以上 60 点未満	— 3	20 点以上 40 点未満	— 2	20 点未満	— 1
評価点（100 点満点）	評価												
80 点以上	— 5												
60 点以上 80 点未満	— 4												
40 点以上 60 点未満	— 3												
20 点以上 40 点未満	— 2												
20 点未満	— 1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で 40 評価単位（合格科目の評価単位数合計）以上を取得し、かつ年間出席率が 80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において 40 評価単位以上を取得し、かつ各年度の出席率が 80%以上であることを条件とする。 年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長													

が卒業を認定する。 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況、又は生活状況が思わしくない学生については国際交流グループと連携し面談や指導を行うなどの学修・生活支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、クラス担任、国際交流グループ、キャリアセンターが連携した進学等に関する学生の進路指導体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
57 人 (100%)	49 人 (86.0%)	1 人 (1.8%)	7 人 (12.3%)
(主な就職、業界等)			
技術・人文知識・国際業務（通訳、接客、営業、管理、他）			
(就職指導内容)			
クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
JLPT(日本語能力試験)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
112 人	3 人	2.7%
(中途退学の主な理由)		
学業不振、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	日本語学科 進学 1 年 6 か月 コース	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年 6 か月	昼	1275 単位時間／単位	544 単位時間 ／単位	731 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			1275 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人の内数		17 人	17 人	2 人の内数	14 人の内数	18 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） 実社会においてグローバルに活躍の場を求めることができる真の国際人としての異文化理解・コミュニケーション能力の育成を図り、高等教育機関への進学を目指す。 授業方法及び内容、年間の授業計画は授業計画書（シラバス）として作成・公表している。													
成績評価の基準・方法													
（概要） ・成績評価方法 授業期間は前期（4 月～9 月）、後期（10 月～3 月）の 2 期制としており、前期・後期ごとに各科目担当により成績評価を行う。 成績評価は期末試験・平常試験・レポート・実習課題・実技・合評審査等（シラバス記載）により各科目 100 点満点の評価点を算出し、評価点により下記の 5 段階（1～5）の絶対評価を行う。通年履修科目の前期における評価は、その学期中の評価とし、科目の最終評価は後期に行うものとする。 各科目評価点 100 点満点に対し 40 点以上を合格とし、その科目の履修を認定するとともに、評価単位を与える。進級・卒業の判定はこの評価単位取得数をもとに行う。 <table> <tr> <th>評価点（100 点満点）</th><th>評価</th></tr> <tr> <td>80 点以上</td><td>— 5</td></tr> <tr> <td>60 点以上 80 点未満</td><td>— 4</td></tr> <tr> <td>40 点以上 60 点未満</td><td>— 3</td></tr> <tr> <td>20 点以上 40 点未満</td><td>— 2</td></tr> <tr> <td>20 点未満</td><td>— 1</td></tr> </table> ・客観的な指標の算出方法 成績評価の客観的な指標として、履修全科目の評価点の平均による成績順位を用いる。成績順位は各科目の評価点（100 点満点）に評価単位数を乗じた加重平均（100 点満点）を算出し、これを各学科・コース・学年別に降順に整列して算出する。 全学科においては前期末及び後期末の成績評価時に、上記方法により評価点平均及び成績順位を算出する。		評価点（100 点満点）	評価	80 点以上	— 5	60 点以上 80 点未満	— 4	40 点以上 60 点未満	— 3	20 点以上 40 点未満	— 2	20 点未満	— 1
評価点（100 点満点）	評価												
80 点以上	— 5												
60 点以上 80 点未満	— 4												
40 点以上 60 点未満	— 3												
20 点以上 40 点未満	— 2												
20 点未満	— 1												
卒業・進級の認定基準													
（概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 進級判定 各学年の進級に関しては、年間で 40 評価単位（合格科目の評価単位数合計）以上を取得し、かつ年間出席率が 80%以上であることを条件とする。 卒業判定 卒業に関しては、卒業までの各年度において 40 評価単位以上を取得し、かつ各年度の出席率が 80%以上であることを条件とする。 年度末の卒業判定会議において学生の履修状況について総合的な判断を行い、校長													

が卒業を認定する。 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 全学科において年度末に進級・卒業判定会議を開催し、各学生の成績評価、出席率等の履修状況を総合的に判断し、進級・卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、入学から卒業までの学修面や生活面を含めた学生生活全般の学修支援を行っており、必要に応じ個別面談や補習授業等の対応を実施している。 成績または出席状況、又は生活状況が思わしくない学生については国際交流グループと連携し面談や指導を行うなどの学修・生活支援も実施している。 また、学生生活に関して様々な不安を抱える学生のために学生相談室を設置し、専門のカウンセラーによる相談を行うなど様々な角度からの支援も実施している。 さらに卒業後の進路に関する相談や指導のため、クラス担任、国際交流グループ、キャリアセンターが連携した進学等に関する学生の進路指導体制を整えており、卒業後の相談にも応じる体制を整備している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
23 人 (100%)	21 人 (91.3%)	1 人 (4.3%)	1 人 (4.3%)
(主な就職、業界等)			
技術・人文知識・国際業務（通訳、接客、営業、管理、他）			
(就職指導内容)			
クラス担任制により、クラス担任とキャリアセンターが連携して以下の就職指導を行う。 就職ガイダンス、業界セミナー、個人面談、履歴書添削指導、面接指導、リクルートスーツ販売会、メイクアップ講座など			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
JLPT(日本語能力試験)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
46 人	3 人	6.5%
(中途退学の主な理由)		
学業不振、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
クラス担任による個別面談、成績不振者に対する補習授業、学生相談室での専門カウンセラーによるカウンセリング		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）	
情報処理学科	200,000 円	720,000 円		施設実習諸費	
AI システム開発学科					
IT スペシャリスト学科					
IT エキスパート学科					
プログラミング学科					
esports エンジニア学科					
ゲームエンジニア学科					
エンターテインメントソフト学科					
ゲーム開発研究学科					
情報工学科		680,000 円	400,000 円		
情報ビジネス学科					
建築インテリアデザイン学科 （建築デザインコース）					
建築インテリアデザイン学科 （建築インテリアコース）					
インダストリアルデザイン学科					
国際コミュニケーション学科					
グラフィックデザイン学科					
3DCG アニメーション学科					
デジタルアニメ学科					
サウンドクリエイト学科					490,000 円
サウンドテクニク学科					
声優タレント学科					
総合研究科(CG コース)	0 円	500,000 円	200,000 円		
総合研究科(建築コース)		750,000 円	150,000 円		
日本語学科(進学 2 年コース)	50,000 円	620,000 円	50,000 円	教育充実費	
日本語学科(進学 1 年 6 か月コース)					
修学支援（任意記載事項）					

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.kobedenshi.ac.jp/info/features/pdf/public_info_report1.pdf		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制） 本校は学校自己評価および学校関係者評価により、組織的・継続的な教育活動の改善を行い、教育の質保証・向上に努める。 学校評価とは、学校教育法第 42 条及び学校教育法施行規則第 66 条に規定する自己評価並びに同法第 43 条及び同法施行規則第 67 条に規定する学校関係者評価をいう。 自己評価を適切かつ円滑に行うための組織として学内に自己評価委員会を置き、年 1 回前年度の学校自己評価を行う。 校長は自己評価の結果を本校の関係者により組織した学校関係者評価委員会（以下「関係者委員会」という。）に報告し、意見を聴き、その意見を尊重し、教育活動及び学校運営に活用しなければならない。 関係者委員会は、関連業界等関係者、卒業生、保護者、教育に関し知見を有する者、その他校長が必要と認める者から校長が委嘱する委員により構成する。 関係者委員会は、校長が招集し、委員長がその運営にあたる。 関係者委員会は、自己評価の進捗状況に応じ次年度の計画策定までの間に 1 回以上開催しなければならない。 教職員は、学校関係者評価の結果を活用し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めなければならない。 校長は、学校関係者評価結果について、理事会の承認を受け、公表しなければならない。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
地域 ICT 推進協議会	2024 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日	企業等委員
NPO 法人神戸デザイン協会	2024 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日	企業等委員
株式会社 SRC ホールディングス	2024 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.kobedenshi.ac.jp/info/features/pdf/public_info_report2.pdf		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.kobedenshi.ac.jp
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H128310000012
学校名（〇〇大学 等）	神戸電子専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人コンピュータ総合学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		367人	345人	378人
内 訳	第Ⅰ区分	242人	221人	
	第Ⅱ区分	79人	85人	
	第Ⅲ区分	46人	39人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				378人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	一人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	一人	0人	一人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	一人	一人
「警告」の区分に連続して該当	0人	一人	一人
計	一人	一人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	16人	0人	10人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	14人	一人	一人
計	24人	一人	13人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。